

授業改善書

科目名	保育教材研究(絵画・造形)
担当者	森本 昭宏

授業の概要

子どもの柔軟な発想に対応していくために、将来の造形指導者となる学生が、様々な素材に親しみ、材料体験を通して豊富な表現活動を学んでいく。幼・保・小の造形教育の連続性について考えるとともに、造形活動の指導・実践に必要な材料・用具の取り扱いについて理解していく。
本講義では、造形の基礎技能の習得を図るために、造形活動で用いられる基本的用具の安全指導と製作材料・用具の特徴を活かした表現及びその指導法についても学ぶ。

授業の問題点

授業の具体的な問題点として、学習態度・予習復習の項目が全般的に低い傾向が毎年見受けられる。予習・復習の授業外学習についてなどや、質問や発言を学生自らが問題意識を持って取り組むことが出来たかなどが課題として挙げられる。
1年次のこの演習科目は、継続的な造形活動の幅広い経験の中から、学生自身が技能を高めていくものである。理論と実践を通して、学生が将来の保育者としての造形力を身に付けていくことをねらいと考える。学生の受動から能動的な学習意欲へと結びつけていくための授業計画・展開・授業内容に改善していくことが求められている。

授業改善の課題・方策

美術は材料が無いことには何も始まらない。準備することから始まる特徴的な科目ともいえる。持ち物準備の段階で予習が始まっている。学生自身の授業外学習の項目が低い、決して予習・復習をしていないとは考えたくない。空き時間を利用して授業外学習(復習)している姿を見掛ける機会が多くあった。授業中机間巡視していく中で、学生からの発問はとて多く、製作のアドバイスをこちらから何度も繰り返した。学生個々の質問に対して繰り返し時間を掛けて答え、一回の授業で全学生と作品に対してのキャッチボールがあったと認識している。このことから、アンケート結果のような学生の意識以上に、真剣に製作に取り組んでいる学生が多かったと感じている。
平時から空き時間を利用して、より質の高い作品を製作している学生を本年は多く見掛けた。アンケート配布時に、項目についてよく説明をすることも今後検討していきたい。この科目は保育士養成課程の必修授業であり、全クラスとも出席率が良く(補講申請も少ない)例年より学習意欲が高かった。

その他

特になし